

船社データ連携機能について

- サイバーポートは、外航船社（ONE様、MSC様）の日本発のBooking情報を全量データ共有いただいております。
- 簡単な初期設定をいただくことで、貴社の利用するBooking情報が集積でき、かつ変更があった場合は随時更新されます。
- 令和7年度までは無料でご利用いただけます。

	CP対応EDIFACTメッセージ	
	Booking確定情報	到着通知情報
ONE	連携済	連携済
MSC	連携済	-
対象船社拡大中		

実務での活用はもちろん、データの一元管理のためにも活用いただけますので、まずは実際に設定してみてください！

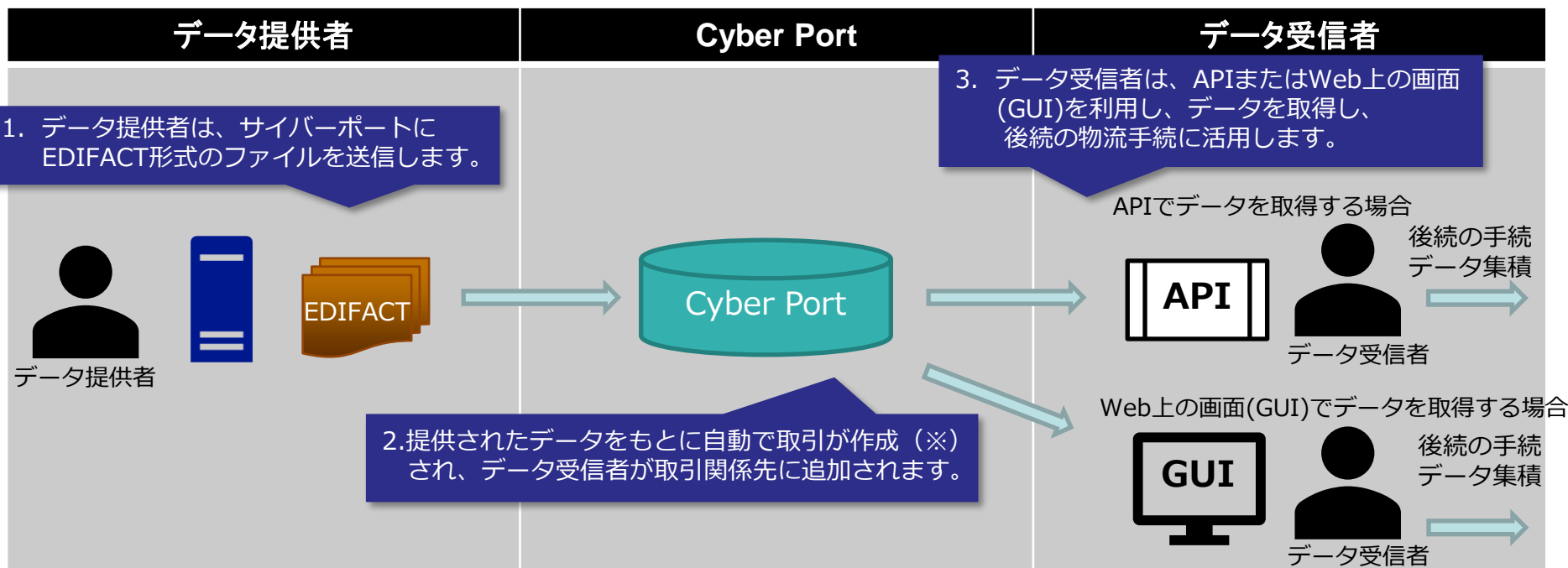
船社データ連携 (EDIFACT連携) 概要について

EDIFACT (=UN/EDIFACT) とは、国際連合 (United Nations) が EDI の国際標準として策定した電子文書の標準交換フォーマットです。

【本機能の目的】

- EDIFACT連携機能により、荷主・海貨等のデータ受信者は、EDIFACTの情報をサイバーポート経由で利用（構造化データとして自社システムに取得もしくはWeb上の画面（GUI）での確認）可能となり、後続の物流手続の業務効率化につながります。
- 国際物流において広く普及しているEDIFACTによるデータ連携に対応することで、データ提供者のCyber Port接続に関する選択肢が追加されます。

【本機能の概要】



※データ受信者が参加する取引が自動で作成されるためには、データ受信者による事前設定が必要です。

【本機能によるメリット】

- 本機能を利用する船社等から提供される本船名、積荷港、ブッキング番号(輸出)、B/L番号(輸入)等の情報がCyber Portに自動で反映されます。
- 活用例(1): 到着通知情報が自動連携されることで、荷主が海運貨物取扱業者(海貨)等に輸入貨物の荷捌依頼を行う場合、情報が自動入力されているため、入力項目が大幅に削減されます。
※モデルケースの場合、輸入貨物荷捌依頼書に必要な項目のうち、約6割の項目があらかじめ反映
- 活用例(2): ブッキング(船腹予約確認書)情報が変更になった場合、変更されたデータ項目がCyber Portに反映されるとともに、取引関係先へCyber Portから変更通知が自動で発出されるため、①ブッキング依頼者は取引関係先への伝達を省略、②後続作業事業者は変更内容が迅速に入手できます。



【本機能の利用方法】

- データ受信者は、EDIFACTファイル内の会社名・会社住所に対し、自組織を事前に紐づけ登録することで、ブッキング(船腹予約確認書)情報や到着通知情報がCyber Port上で自動で受領、更新されるようになります。この際、データ提供者側との調整等は発生しません。

利用までの流れ(データ受信者)

データ受信者における本機能の利用の流れ

- データ受信者となる、荷主・海貨等の事業者がEDIFACT連携機能を利用するにあたっての流れは以下の通りです。
- それぞれの詳細は次頁以降に記載します。

【利用の流れ】

1. サイバーポートへの利用申請

サイバーポートへの利用申請を行ってください。
これにより貴社の会社情報がサイバーポートに登録され、船社等から送られてくるEDIFACTデータ内に、貴社宛てのデータがあるか確認することができます。

2. 組織・利用者の作成

サイバーポートのマスタ設定として、組織及び利用者の作成を行ってください。さらに作成した利用者は同じく作成した組織に所属させる必要があります。

3. 自動作成取引への参加設定

受信したEDIFACTデータを貴社のどの組織に連携するかの設定を行ってください。
EDIFACTデータ内のキー情報より、貴社の設定したどの組織に連携するかを設定していただきます。

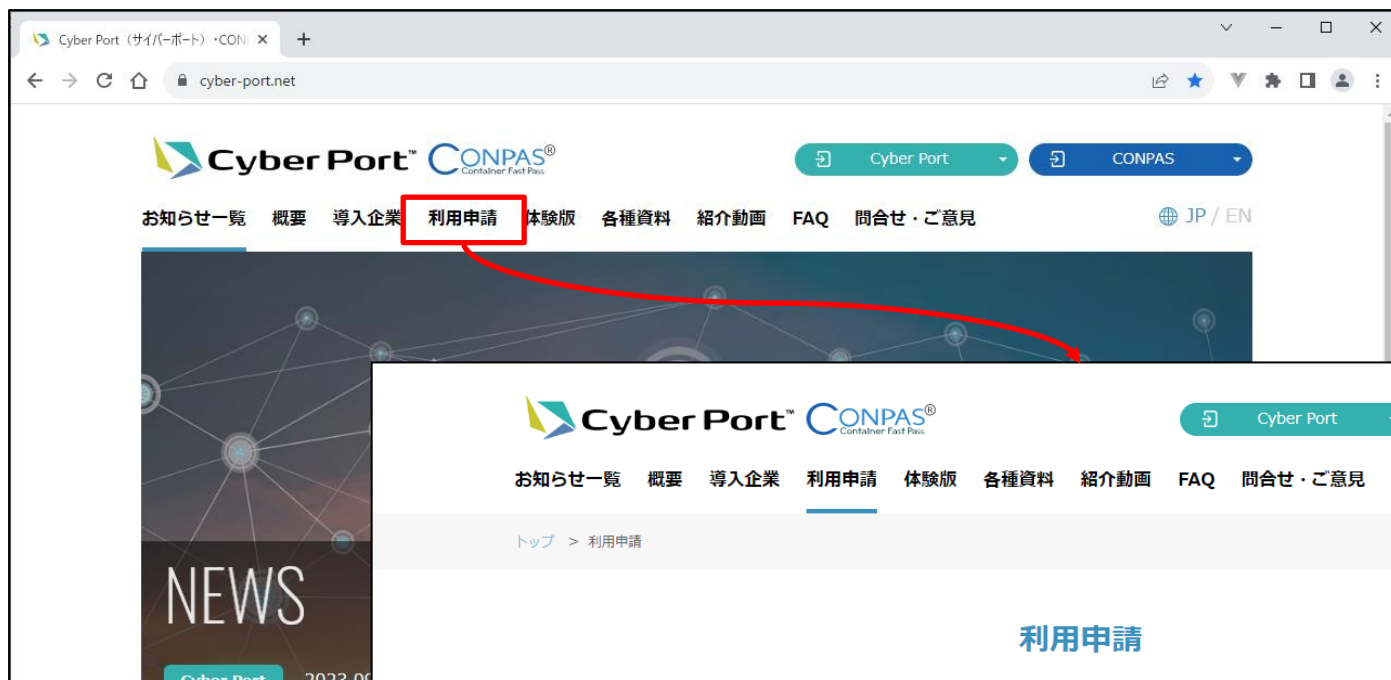
4. EDIFACTデータ受信

船社等からEDIFACTデータを受信すると、「3」の設定に基づき、貴社の組織にデータが連携されます。

1. 利用申請

- サイバーポートのポータルサイトより利用申請を行ってください。
- ポータルサイトURL:

<https://www.cyber-port.net/>



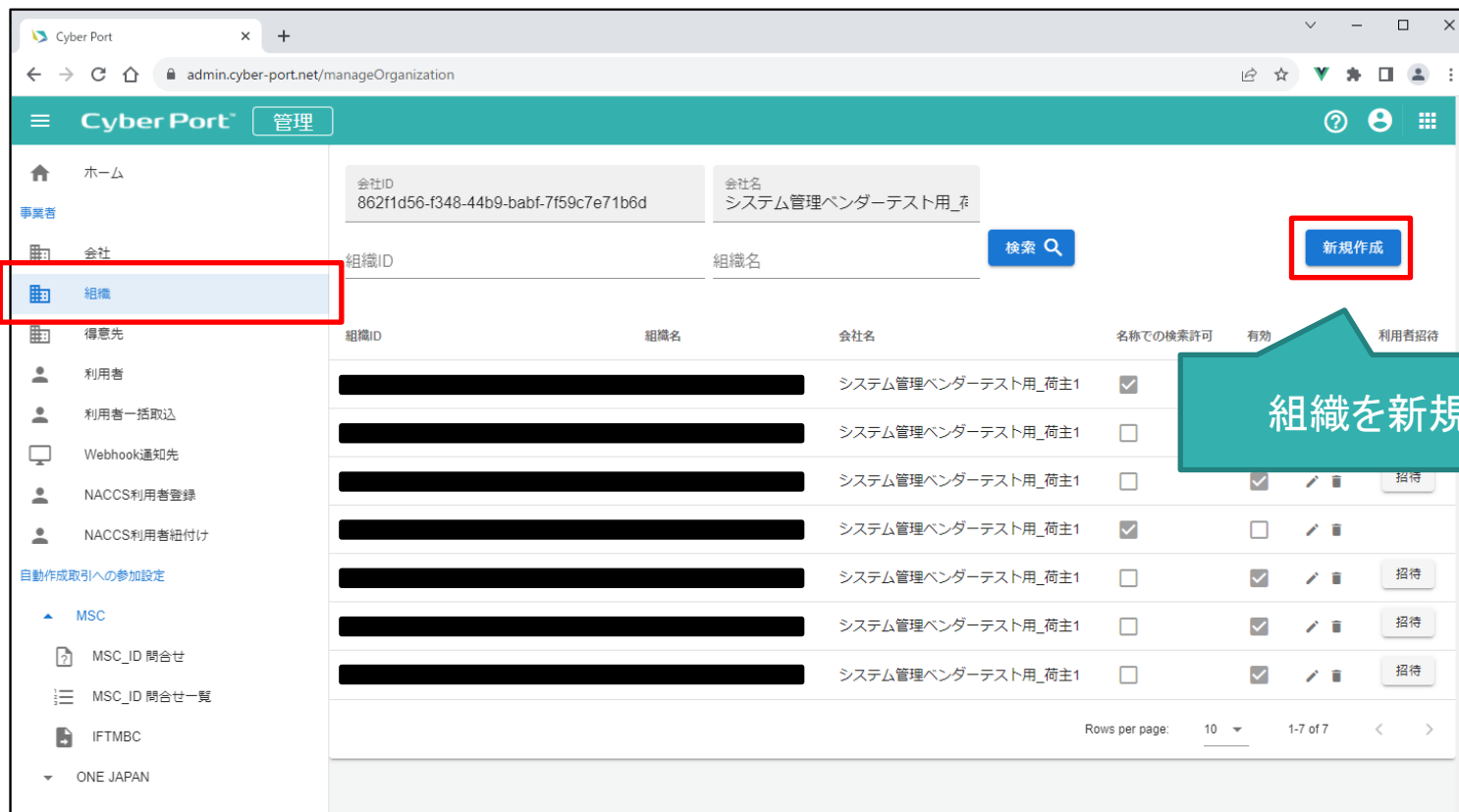
2. 組織・利用者の作成 – 組織の作成

- 組織の作成は以下の画面より行ってください。
 - 管理者メニューURL:

<https://admin.cyber-port.net>

【マニュアル参照箇所】
 操作マニュアル(管理者向け)
 5.組織 I【組織情報の新規作成】

◆管理者メニューにログイン ⇒ (左メニューの)組織を選択



The screenshot displays the 'manageOrganization' page in the Cyber Port administrator interface. The left sidebar contains a menu with '組織' (Organization) highlighted. The main area shows a search bar and a table of organizations. A '新規作成' (New) button is highlighted with a red box. A callout box points to this button with the text '組織を新規作成'.

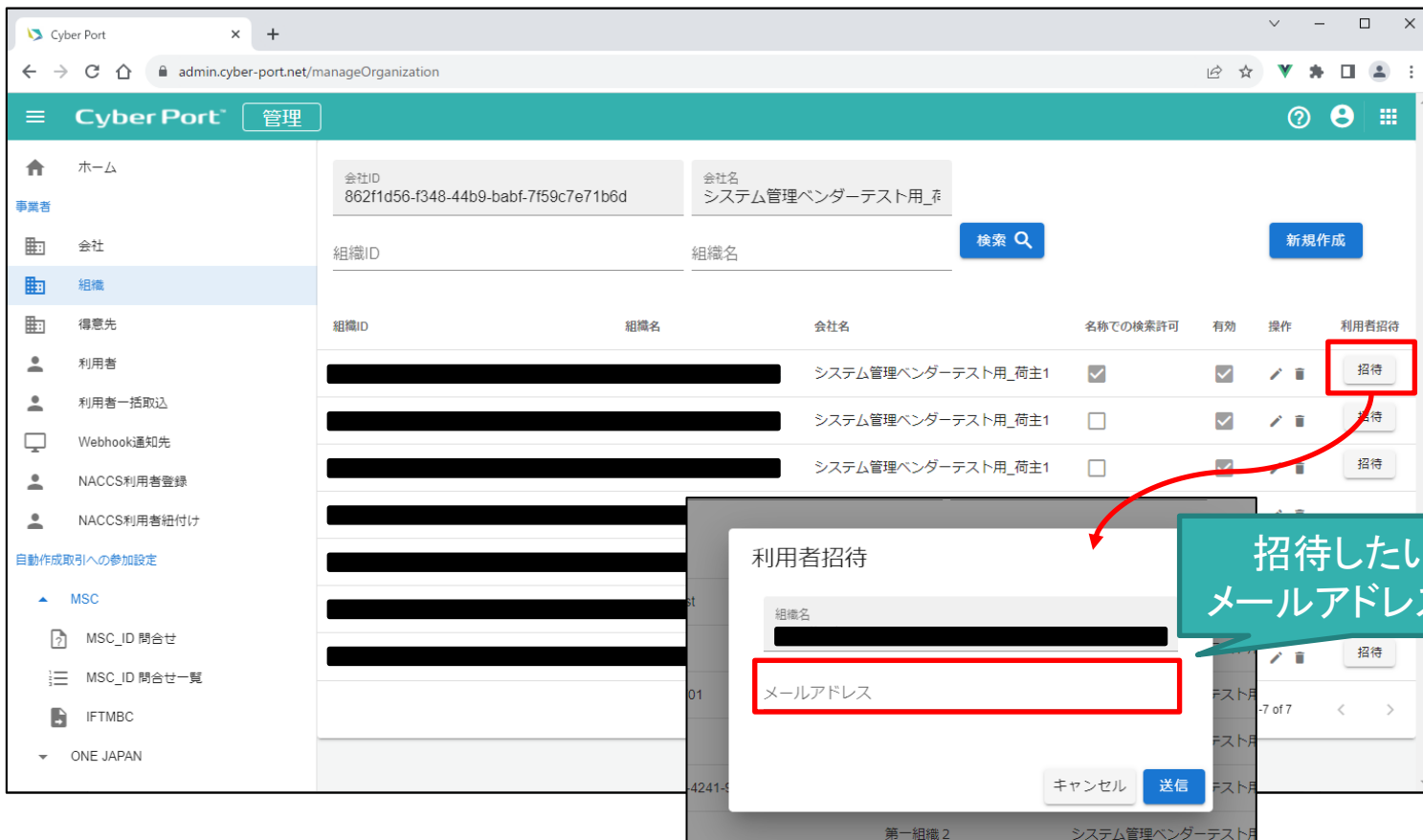
組織ID	組織名	会社名	名称での検索許可	有効	利用者招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	招待
[Redacted]	[Redacted]	システム管理ベンダーテスト用_荷主1	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	招待

2. 組織・利用者の作成 – 利用者の作成(招待)

- 利用者の作成(招待)は以下の画面より行ってください。

【マニュアル参照箇所】
 操作マニュアル(管理者向け)
 5.組織 IV【利用者を招待する】

- ◆ 管理者メニューにログイン ⇒ (左メニューの)組織を選択
- ⇒ (招待したい利用者の組織で)利用者招待
- ⇒ 入力したメールアドレス宛に招待メールを送信



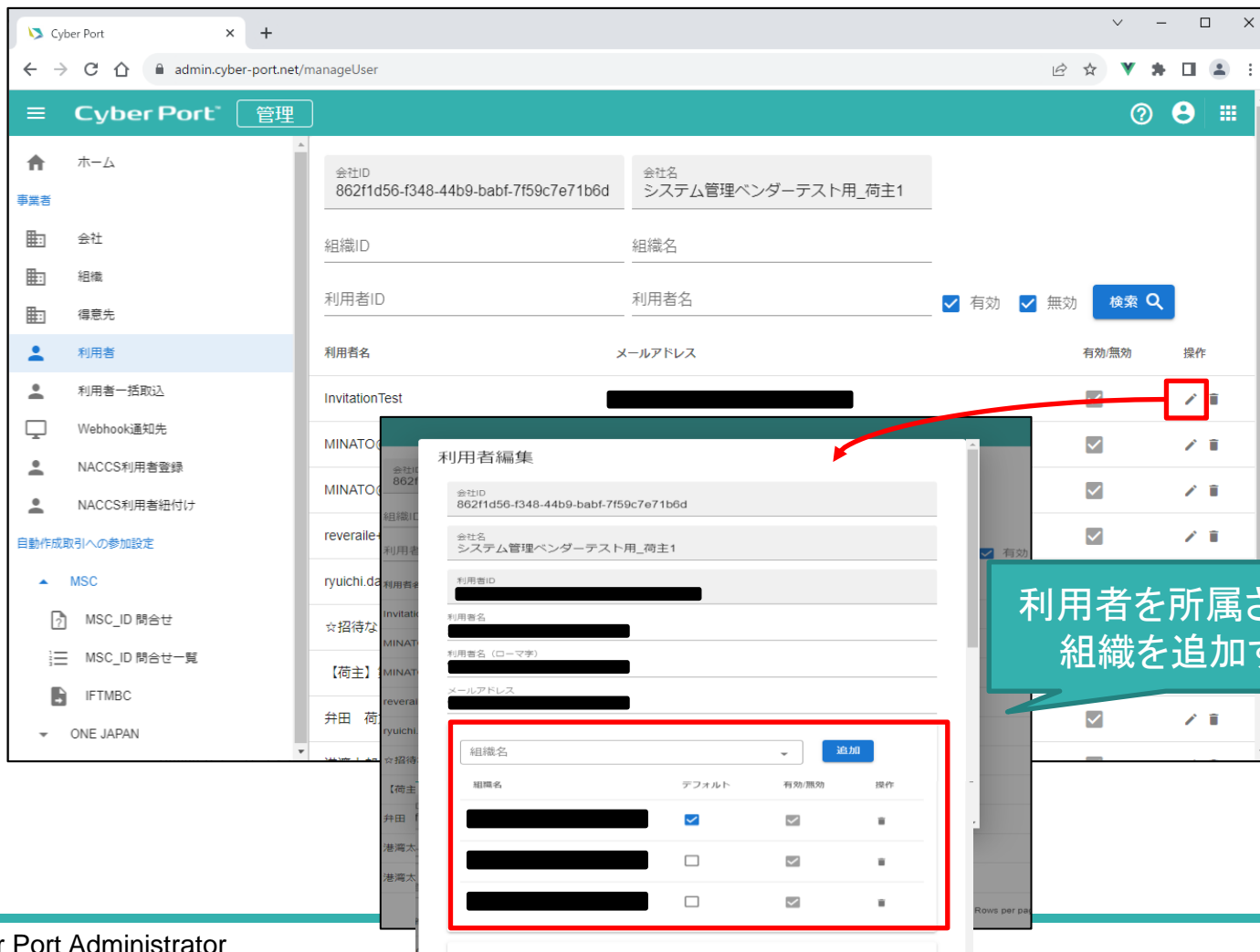
The screenshot shows the Cyber Port administrator interface. The left sidebar contains a navigation menu with '組織' (Organization) selected. The main content area shows a table of users with columns for '組織ID', '組織名', '会社名', '名称での検索許可', '有効', '操作', and '利用者招待'. The '招待' button in the '利用者招待' column is highlighted with a red box. A modal window titled '利用者招待' is open, showing a form with a 'メールアドレス' field highlighted by a red box. A red arrow points from the '招待' button in the main table to the modal. A callout box with a red border contains the text '招待したい方のメールアドレスを入力' (Enter the email address of the person you want to invite).

2. 組織・利用者の作成 – 利用者を組織に所属させる

- 利用者を組織に所属させるには以下の画面より行ってください。ただし、組織の画面から招待した場合は不要です。

【マニュアル参照箇所】
操作マニュアル(管理者向け)
6.利用者 II【利用者情報の編集】

◆管理者メニューにログイン ⇒ (左メニューの)利用者を選択



The screenshot shows the Cyber Port administrator interface. The left sidebar has the '利用者' (Users) menu selected. The main content area displays a table of users with columns for '利用者名' (Username) and 'メールアドレス' (Email Address). A red box highlights the edit icon in the '操作' (Actions) column for the user 'InvitationTest'. A modal window titled '利用者編集' (Edit User) is open, showing the user's details and a table for managing organization membership. The table has columns for '組織名' (Organization Name), 'デフォルト' (Default), '有効/無効' (Active/Inactive), and '操作' (Actions). A red box highlights the '組織名' dropdown and the '追加' (Add) button. A red arrow points from the edit icon in the main table to the modal. A callout box with a red arrow pointing to the modal contains the text: '利用者を所属させたい組織を追加する。' (Add the organization you want to assign the user to.)

3. 自動作成取引への参加設定

【マニュアル参照箇所】
 操作マニュアル(管理者向け)
 9.自動作成取引への参加設定

- 受信したEDIFACTデータを貴社のどの組織に連携するか、「EDIFACTデータ内のキー情報」と「貴社が作成した組織」の紐付け設定を行ってください。
- キー情報は以下の通りです。
 - EDIFACTファイル内のデータより抜き出してキー情報としています。

No.	会社	EDIFACT種類	キー情報①	キー情報②
1	ONEJAPAN	IFTMBC (Booking Confirmation)	会社名	会社住所
		IFTMAN (Arrival Notice)		
2	MSC	IFTMBC (Booking Confirmation)	MSC_ID ※ MSCのWebブッキングサイト 「My MSC」のID	会社住所

- ONEJAPANの場合

【マニュアル参照箇所】
操作マニュアル(管理者向け)
9.自動作成取引への参加設定

ONEJAPANを利用している場合、既にEDIFACTデータが連携されている。設定するデータの行をチェックし、「取引に参加する組織を変更」を選択

ONEJAPANを選択

自動作成取引への参加設定
Cyber PortがEDIデータ受信時に自動作成する取引への参加組織を設定します

取引に参加する組織

未設定	EDIデータ内の貴社名	EDIデータ内の貴社住所
<input type="checkbox"/>	XXXXX FORWARDER	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX NAGOYA JAPAN
<input type="checkbox"/>	XXXXX FORWARDER	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO
<input type="checkbox"/>	XXXXX FORWARDER INC	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO JAPAN

取引に参加する組織

2件選択中 | 取引に参加する組織を変更

自動作成取引への参加設定

取引に参加する組織

未設定	EDIデータ内の貴社名	EDIデータ内の貴社住所
<input checked="" type="checkbox"/>	XXXXX FORWARDER	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO
<input checked="" type="checkbox"/>	XXXXX FORWARDER INC	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO JAPAN

自動作成取引への参加設定登録
EDIデータ受信時に自動作成される取引に参加する組織の事業種別を選択してください

EDIデータ内の貴社名	EDIデータ内の貴社住所
XXXXX FORWARDER	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO
XXXXX FORWARDER INC	XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX XXXXX TOKYO JAPAN

組織ID	組織名	参加する組織・事業種別選択
XXX_TOKYO	海貨本部	<input type="radio"/> 通関業者 <input checked="" type="radio"/> 海貨業者
XXX_OSAKA	海貨大阪支部	<input type="radio"/> 海貨業者

保存

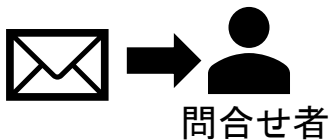
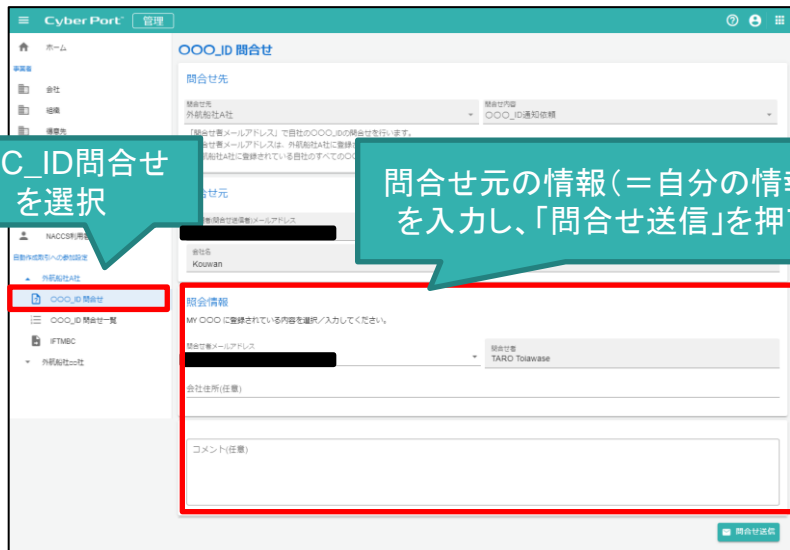
設定する組織の事業種別を選択(複数可)し、保存

3. 自動作成取引への参加設定 – MSCの場合

【マニュアル参照箇所】
 操作マニュアル(管理者向け)
 9.自動作成取引への参加設定

• MSCの場合

- 本画面よりMSCにMSC_IDの問合せをします。
 ⇒MSCよりMSC_IDを取得
- 当該MSC_IDと会社住所がEDIFACTデータ内に入っている場合に連携する組織を設定



サイバーポートより、問合せ者に対して、
 1)問合せ直後に問合せ受付確認
 2)MSC回答後に通知
 のメールを送信します。

以降の流れはONEJAPANと同様

4. EDIFACTデータ受信

- 3で設定した組織に、随時連携されます。
 - ✓ IFTMBC ⇒ 取引が作成され、その取引に「UL050 船腹予約確認書」が作成される。
 - ✓ IFTMAN ⇒ 取引が作成され、その取引に「UL290 到着通知 (Arrival Notice)」が作成される。

The screenshot shows the Cyber Port web application interface. A red box highlights the '最近更新のあった取引' (Transactions with recent updates) section. A callout bubble points to this section with the text: '連携されるよう設定をしていると、「最近更新のあった取引」がどんどん更新されていきます。' (If you set up to be linked, 'Transactions with recent updates' will be updated more and more).

取引ステータス	取引ID	更新時間
取引中	NN-XX-202205deal	28 分前
取引中	NN-NN-Deal202200	49 分前
取引中	EXP_2022122300021653	約 1 日前
取引完了	SampleDeal	約 1 日前
取引完了	0830deal	約 2 日前

連携されたタイミングで通知メールが送られるように設定することが可能です。(デフォルトは通知オフ)
 ※設定方法は次頁を参照してください。

【参考】通知設定

【マニュアル参照箇所】
 操作マニュアル(管理者向け)
 9.自動作成取引への参加設定

- 通知設定は、以下の流れで設定します。
 - 通知設定をしたいユーザーで利用者メニューにログインし、右上の人のアイコンより、個人設定>メール通知 にて以下の画面に遷移
 - 以下の画面より、通知を受けたい操作にチェックを入れ、右上の「設定を保存する」を押下



本件におけるオススメの設定は、該当の帳票の操作の「更新」です。
 IFTMBC ⇒ UL050 船腹予約確認書 の行の更新列にチェック
 IFTMAN ⇒ UL290 到着通知 (Arrival Notice) の行の更新列にチェック
 これにより連携されたタイミングで通知が来て、どちらの帳票か分かります。

